

ヒナラン

Amitostigma gracile (Blume) Schltr.

ラン科

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

絶滅危惧 I B類

選定理由

全国的にも稀産の種類で、県内の産地はごく少なく1産地のみが知られている。(現況:R-)

形態

ヒナラン属は日本には4種あるが、県内には本種を含めて2種が分布する。近縁種はコアニチドリである。本属にあって両種とも、唇弁が三裂するが、いずれもさらに中裂片が二裂することはない。両種の大きな相違点は葉の形態であって、本種は1個の楕円形～広披針形の葉が基部を抱いて着くのに対して、コアニチドリでは広線形の葉が茎の下部に1～2個が茎を抱いて着く。淡紫色の小花が10～15個、一方に偏って着き優美である。

国内分布

愛知県以西(茨城県にも離れて分布)主に分布する。

県内分布

南加賀区。

生態など

岩上に着生する多年生草本。開花期は6～7月。

生育環境

樹林下の岩上に群生。

危険要因

土地造成、園芸採取、自然遷移、産地局限。

特記事項

特に園芸採取の危険が大きい。



白井伸和・2007年7月15日

分布図はありません。